スケッチの描き方

■はじめに

生物実験におけるスケッチは､生物の特徴や重要な構造と形態を表現するものである｡デッサンとは異なり、見えたままを描くものではない。スケッチをすることで、対象の細部まで観察する姿勢が身につく。

■留意点

① スケッチを描くときは、先のとがった２H、３H などの硬い鉛筆を用いる。
② 細部まで表すことができるように、なるべく大きく描く。
③ 最初に薄く輪郭を描き、修正しながら、濃い線で仕上げると描きやすい。ただし、生物のスケッチでは、構造を線で表すため、輪郭は１本の連続した線で描く（図 1a c)。
④ 黒く見えても塗りつぶす必要はない。濃淡を表現したい場合は、密な部分や不透明な部分を点描し、斜線などは使わない(図１b)。
⑤ 見えるものを全部描く必要はなく、意味のある構造のみを表現し、同じ構造の繰り返しの場合は、繰り返しの一部のみを描写して、残りは省略してもよい(図１ｄ)。
⑥ 目的に応じて、最も適した標本を探し出し、スケッチする。顕鏡した場合は、微動ハンドルと絞りを調整して、立体的に観察したものを総合的にスケッチする。視野の円い輪郭を描く必要はない(図１ｄ)。
⑦ スケッチだけでは表せないところは言葉で表現してもよい。
⑧ 描いた標本の実際の大きさがわかるように、スケールをいれる。

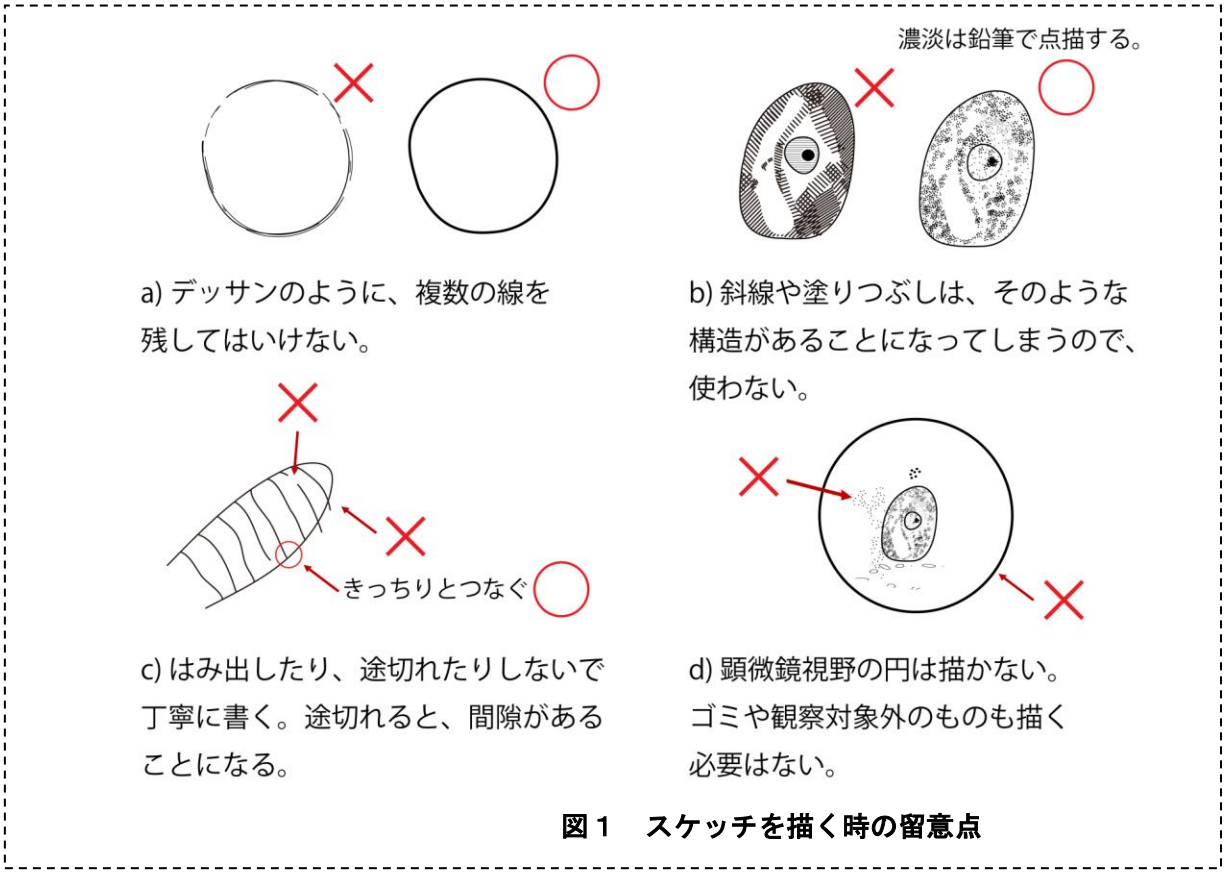

図１　スケッチを描く時の留意点